● その他の農具 ●

（年中使われている作業を効率よく行うための農具。）

■肥担桶（こえたご）

し尿を田畑に施肥するために運ぶ桶で肥桶ともいう。側板の対角の二枚を角状に高くし、縄に結び結びつけて、天秤棒で前後に吊り下げ、一荷で運ぶのが一般的である。
液状のし尿が揺れで飛び跳ねないよう、中に板を浮かせたり、横棒の一方を桶の縁から飛び出るようにして簡単に取り外しできるような蓋をするなどの工夫をしたものもある。

■斗桶（とおけ）

主に米などの穀物を計量する一斗（約 18 ℓ）用の円筒形の枡。正規の枡として検定されたもの以外にも、おおよその目安で一斗入れすることも多く、円形だけでなく、楕円形もある。計量に使われるだけでなく、脱穀作業で選別する唐箕の注ぎ口に穀粒を落とし込んだり、籾を筵に広げて乾燥するときなど、おおよその量をはかりながらの作業でも使われた。

■岡持

食べ物や食器を入れて持ち運ぶ容器。蓋つき浅い器の両側に二本の長柄をのばし、取っ手を渡したもの。田植えや稲刈りのとき、大勢の食事や食器を野良まで運んだりするのに用いる。

■大八車

江戸時代以降盛んに使用されるようになった人力によって荷物や米俵を運搬する二輪車。羽根 7 枚と矢による車輪と簀子張りの車台で出来ている。1～2 人で引き、後押しに 2 人程ついた。江戸時代の明暦大火後の復興整備に、重量のあるものを運ぶため大いに活躍した。全国的に普及するのは、農村部に入る明治期になってからといわれ、昭和初期まで各地で荷物輸送に使われた。